

一泊研修 熊本城と周辺

小野 英治

(会員 佐伯市弥生)

平成二十年十月十六日、十七日、参加十九名、阿蘇神社・国造神社・熊本城・細川刑部邸・ワイン工場経由で山鹿温泉富士ホテルに宿泊、翌日細川家墓地・水前寺公園を見学する。好天に恵まれ有意義な研修であった。

熊本城は築城四百年ということで、目玉は本丸御殿復元の見学であったが、内部の絢爛豪華な昭君の間には驚くばかりであった。

築城四百年にあたる平成十九年度を目標に平成十年度から歴史的建造物の復元に取り組み、六基の建造物（南大門・戌亥櫓・未申櫓・元太鼓櫓・飯田丸五階櫓・本丸御殿大広間）、平成十一年の台風で倒壊の西大手門もあわせて再建された。その費用を年度別にまとめると以下のようになる。



国造り神社の大杉切株



阿蘇神社

◎西出丸一帯（南大手門・戌亥櫓・未申櫓・元太鼓櫓）

事業年度・平成十～十五年度

総事業費・約十九億円

◎西大手門

事業年度・平成十～十五年度

事業費・約五億円

◎飯田丸五階櫓

事業年度・平成十～十六年度

事業費・約十一億円

◎本丸御殿大広間

事業年度・平成十一～十九年度

事業費・約五十四億円

以上は木造で当時の建築技術研究によったものであるから多額の費用と期間を要した。なお、天守は昭和三十四年四月起工、翌五年八月に完成、総工費一億八千万円、鉄筋コンクリート造である。

四百年前の慶長十二年（一六〇七）完成した熊本城は巨額の費用を要したことは容易に想像されるが、それは領主加藤清正の経済力と技術力を高く評価すべきであろう。資金面では海外貿易や特産品の上方への販売などに



飯田丸五階櫓
（石垣上の栗石に注目）



宇土櫓より天守と右下本丸御殿を望む

よる収益、表向き五十二万石は実質七十三万石といわれる大國肥後の実収入など財政的裏付けもあり、技術的には石垣築きの名手（飯田覚兵衛・三宅角左右衛門）の『両カク』を中心とした技術集団と実戦経験による名築城家清正の縄張りによる集大成が熊本城なのである。

細川家墓地は二ヶ所にあり、泰勝寺跡と妙解寺跡で今は堂塔はないが、前寺には細川幽斎・忠興・ガラシヤ夫人の廟、後寺には細川忠利廟、その前に森鷗外の『阿部一族』で有名な安部弥市右衛門の墓他があった。

水前寺成趣園は細川忠利が茶室・茶屋として設け綱俊が池泉回遊式庭園として整備したもので、国指定の名勝・史跡である。湧水池や庭園は美しいが、残念ながら周辺に高層ビルが建ち背景がよくない。

加藤家略系図

きよただ ① 清忠 — ② 清正 — 忠広 — 光正
きよまさ ただひろ みつまさ

寛永九年（一六三二）
 改易、細川氏にかわる

|| 熊本城主

熊本城の周辺は旧城下の町割で車での通行は不便である。福岡や北九州のような都市高速があれば有効な時間設定ができたのではなかったかと思われるが、やがて大分熊本間も高速道が完成する。



於 水前寺公園



天守から本丸御殿を望む



泰勝寺跡の細川家墓所



妙解寺の細川家墓所

細川家略系図

